

令和4年度（令和3年度対象）

南丹市教育委員会  
点検・評価報告書

令和4年9月

南丹市教育委員会

本報告書は、効果的な教育行政の推進と市民への説明責任を果たすため「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条第1項の規定に基づき、南丹市教育委員会が毎年度示す「南丹市教育の指針」に沿って事務の執行状況について点検・評価したものです。

南丹市教育委員会では、今後も教育環境の整備・充実を図るとともに、ふるさと南丹市を愛し生涯にわたって主体的で心豊かに学び続ける教育の推進に努力してまいります。

南丹市教育委員会

教育委員会委員名簿（令和4年9月現在）

職名	氏名
教育長	木村 義二
教育長職務代理人	高屋 毅史
委員	城戸 貴子
委員	淵上 真奈美
委員	前田 好久

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 1 教育委員会議の開催状況

教育委員会議については、原則として毎月1回「教育委員会定例会」を開催し、必要に応じて臨時会を開催いたしました。

### ■令和3年度開催教育委員会議

- (1) 教育委員会定例会・・・12回
- (2) 教育委員会臨時会・・・3回

## 2 教育委員会議での審議状況

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第21条に定める職務について、同法第25条及び「南丹市教育委員会教育長事務委任規則」の規定に基づき、令和3年度は合計31件について審議いたしました。

- (1) 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針・・・14件
- (2) 教育委員会規則等の制定及び改廃・・・・・・・・・・・・5件
- (3) 職員（教職員を含む）の人事に関する事・・・・・・・・12件

### 【第1回定例会 令和3年1月21日】

#### 議事

議案第1号 南丹市放課後児童健全育成事業に関する条例施行規則の一部改正について

議案第2号 南丹市立小学校及び中学校に勤務する府費負担教職員の服務に関する規程の一部改正について

#### その他

- ・令和2年度南丹市スポーツ・文化賞表彰式について
- ・新型コロナウイルス感染症対応に係る学校長と教育長連名の通知について
- ・GIGAスクール構想タブレット端末の導入について
- ・南丹市成人式の開催について

### 【第2回定例会 令和3年2月10日】

#### 議事

議案第3号 令和2年度南丹市一般会計補正予算について（補正第8号）

議案第4号 南丹市いじめ防止等対策委員会委員の委嘱について

議案第5号 令和2年度南丹市一般会計補正予算について（補正第9号）

議案第6号 令和3年度南丹市一般会計当初予算について

議案第7号 公の施設の指定管理者の指定について  
（南丹市八木フィジカルセンター）

議案第8号 公の施設の指定管理者の指定について  
（南丹市美山長谷運動広場及び同所管理棟）

その他

- ・総合教育会議の開催について
- ・令和2年度 第2回いじめ調査等のまとめについて
- ・令和2年度「地域学校協働活動」推進に係る美山地域学校協働本部の文部科学大臣表彰について

【第1回臨時会 令和3年2月25日】

議事

議案第9号 令和3年度南丹市教育委員会府費負担教職員管理職人事異動の内申について

議案第10号 令和3年度南丹市教育の指針について

【第3回定例会 令和3年3月17日】

その他

- ・令和3年3月議会定例会における教育委員会関連一般質問について
- ・教育委員会広報誌「南丹市の教育」の配布について

【第2回臨時会 令和3年4月1日】

議事

議案第11号 南丹市教育委員会教育長職務代理者を指名することについて

議案第12号 南丹市教育委員会事務局職員の人事異動の承認について

議案第13号 南丹市立小中学校の主任任命の承認について

議案第14号 南丹市学校運営協議会委員の任命について

議案第15号 南丹市地域学校協働活動推進員の委嘱について

議案第16号 南丹市文化財保護審議会委員の委嘱について

議案第17号 南丹市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員の委嘱について

議案第18号 南丹市立小学校及び中学校における文書取扱規程の一部改正について

その他

- ・各種委員会等への就任について
- ・社会教育委員会の答申「南丹市における社会体育施設の今後の在り方について」について

【第4回定例会 令和3年4月22日】

議事

議案第19号 南丹市社会教育委員の委嘱について

議案第20号 南丹市いじめ防止等対策委員会委員の委嘱について

議案第21号 南丹市立小学校及び中学校の修学旅行等の中止に伴う保護者負担緊急支援補助金交付要綱の一部改正について

議案第22号 令和3年度南丹市一般会計補正予算について（補正第1号）

報告第1号 南丹市立小中学校共同学校事務室の室長及び職員の任命について

その他

- ・京都市町村教育委員会連合会定期総会、研修会の案内
- ・教育委員学校訪問について（日程調整）
- ・総合教育会議の会議録について
- ・修学旅行の延期について
- ・冊子「令和2年度 八木中学校区 道徳教育研究のまとめ」について
- ・園部文化会館（アスエルそのべ）リニューアルオープンの案内

【第5回定例会 令和3年5月12日】

議事

議案第23号 令和3年度南丹市一般会計補正予算について（補正第2号）

その他

- ・教育委員学校訪問について
- ・南丹教育委員会連絡協議会総会について
- ・令和3年度南丹地区教科用図書採択協議会について
- ・園部文化会館（アスエルそのべ）再開館の報告

【第6回定例会 令和3年6月28日】

議事

議案第24号 南丹市社会体育施設条例施行規則の一部改正について

議案第25号 「南丹市教育委員会事務の点検・評価の実施」に係る点検・評価アドバイザーの選任について

報告第2号 南丹市教育委員会規則等で定める様式における押印の取扱いの特例に関する規則の制定について

その他

- ・令和3年6月議会定例会における教育委員会関連一般質問について
- ・令和3年度南丹地区教科用図書採択協議会について
- ・道徳教育、地域とともにある学校づくりの報告
- ・京都府暫定登録文化財の報告（小出藩関連）
- ・放課後児童クラブ園部たんぼぼ建設に関する報告

【第7回定例会 令和3年7月12日】

その他

- ・新型コロナウイルス感染症対策本部等の報告
- ・日吉町郷土資料館夏季企画展「戦争展」について
- ・社会体育係「サクッとヨガ」、図書館「オーサービジット事業」実施報告

【第8回定例会 令和3年7月12日】

議事

議案第26号 令和4年度南丹市立小学校使用教科用図書の採択について

議案第27号 令和4年度南丹市立中学校使用教科用図書の採択について

議案第28号 令和3年度南丹市一般会計補正予算について（補正第4号）

その他

- ・中学校夏の大会結果報告
- ・社会教育委員会議の報告

【第9回定例会 令和3年9月22日】

議事

議案第29号 南丹市いじめ防止等対策委員会委員の委嘱について

その他

- ・令和3年9月議会定例会における教育委員会関連一般質問について
- ・後期学校訪問について
- ・近畿市町村教育委員研修大会について
- ・市町村教育委員会オンライン協議会について
- ・令和3年度第1回いじめ調査の概要について
- ・コロナ感染症対策のガイドラインについて
- ・小中学校運動会・体育祭及び修学旅行について

【第10回定例会 令和3年10月19日】

議事

議案第30号 「南丹市教育委員会事務の点検・評価」の結果報告について

その他

- ・令和3年度 南丹市立学校・園教職員表彰について
- ・「市長と語ろう私たちのまちづくり」の実施について
- ・令和3年度第1回南丹市いじめ防止等対策委員会議について
- ・南丹市文化博物館及び日吉町郷土資料館秋季企画展について

【第3回臨時会 令和3年11月8日】

議事

議案第31号 令和3年度南丹市一般会計補正予算について（補正第6号）

【第11回定例会 令和3年11月24日】

開催中止

【第12回定例会 令和3年12月15日】

その他

- ・令和3年12月議会定例会における教育委員会関連一般質問について
- ・南丹市教育委員会年末年始の日程について
- ・南丹教育委員会連絡協議会視察研修について
- ・南丹市文化財保護審議会開催報告
- ・南丹市放課後児童健全育成事業運営委員会開催報告
- ・南丹市社会教育委員会議の開催について

- ・南丹市伝統的建造物群保存地区保存審議会の開催について
- ・南丹市成人式について

### 3 教育委員会活動

学校・幼稚園等教育施設訪問／令和3年6月、11月  
 南丹市総合教育会議  
 京都府市町村教育委員会連合会定期総会、研修会  
 南丹教育委員会連絡協議会総会、研修会  
 市町村教育委員会オンライン協議会

### 4 教育行政事務の取り組み状況に対する点検・評価

南丹市教育委員会事務の点検・評価の実施に関する要綱（平成25年南丹市教育委員会告示第9号）に基づき、下記の要点をもって点検・評価を実施しました。また、教育に関し専門的知見を有する点検・評価アドバイザーからは、事前送付した事務局作成による調書・資料により、8月17日に点検・評価に係る意見聴取し、様々な意見や助言をいただきました。意見・助言をいただいた点検・評価アドバイザーは次のとおりです。

(敬称略)

氏名	所属
原 清治	佛教大学 副学長 教育学部 教授
内山 淳子	佛教大学 教育学部 特任准教授
山本 博樹	立命館大学 総合心理学部 教授

#### (1) 点検・評価の要点並びに構成

##### ① 評価対象

「令和3年度南丹市教育の指針」に基づき実施した教育総務課、学校教育課及び社会教育課に属する事業のうち、重点事項に属する事務事業（25項目）に対して、点検・評価アドバイザーからの意見を聴取しております。

② 成果・課題等

事業の実施に伴い、成果が得られた内容や課題を示しています。

③ 「南丹市総合振興計画実施計画」及び「南丹市教育振興基本計画」との関係

それぞれの計画で定められた10年後の南丹市の姿を目指し実施する事業について、実施年度における教育委員会としての点検・評価事務として位置づけています。

④ 内部評価と総合評価 ※評価判断の基準は下記に記載のとおり

(内部評価) 対象評価項目事務事業を所轄する担当課による評価です。

(総合評価) 内部評価に加え、点検・評価アドバイザーの参照意見を踏まえた教育委員会としての評価です。

※評価判断基準	
A	計画どおり又は計画以上の成果が得られた
B	課題は残しながらも概ね目標は達成できた
C	課題を残し目標も十分達成できなかった
D	検討段階で具体の成果はなかった

⑤ 点検・評価票記載内容等に係る改善点について

本年度実施したアドバイザーからの意見聴取を踏まえ、次年度からの運営に資することとします。



◆令和4年度 南丹市教育委員会主要事務事業一覧&「点検・評価」項目（令和3年度事務事業）◆

令和3年度「南丹市教育の指針」		担当課	項目番号	主要事務事業名「点検・評価」項目
①重点実践項目	②実践の方向性			
1. 豊かな人間性の育成	「夢」と「志」を持ち、豊かな人間性を備えた人材を育成する	学校教育課	1	(1) 道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業
		教育総務課	2	(2) 共同学校事務室における事務の共同化
	確かな学力の定着と論理的思考力の育成を図る	学校教育課	3	(3) 情報教育研究事業 (ICT教育・プログラミング教育)
		教育総務課	4	(4) 情報機器整備事業
	生涯にわたる学習の機会と自発的な学習への参加を促進させる	社会教育課	5	(5) 生涯学習推進事業
	0歳から読書で学べる環境を構築する	社会教育課	6	(6) 講座開設事業 (図書館)
		学校教育課	7	(7) 学校司書等設置事業
2. 安心して学べる環境の構築	人権が尊重されるまちづくりの推進	学校教育課	8	(1) 生徒指導の3機能を生かした指導の充実
		社会教育課	9	(2) 人権教育事業 (人権教育講座)
	子どもを地域社会総がかりで守る仕組みを整える	学校教育課	10	(3) 児童生徒就学支援事業
	学校や生涯学習施設の安全対策を図る	教育総務課	11	(4) 長寿命化計画、安全・安心な学校教育環境整備事業
		学校教育課	12	(5) 通学安全対策事業
	生涯にわたって誰もがスポーツを楽しみ、文化に親しめる仕組みを整える	社会教育課	13	(6) 社会体育振興事業

令和3年度「南丹市教育の指針」		担当課	項目番号	主要事務事業名「点検・評価」項目
①重点実践項目	②実践の方向性			
3. 「地域を学ぶ、地域で学ぶ」環境の創出	地域資源（重要文化財や歴史資産）を学べる環境を整える	社会教育課	14	(1) 歴史遺産振興事業
		社会教育課	15	(2) 重伝建地区保存修理補助事業及びかやぶき屋根保存修理補助事業
	市の文化財の魅力の創出と発信を行う	社会教育課	16	(3) 展示会事業
		社会教育課	17	(4) 文化財維持管理事業
	さまざまな学習機会を創出する	学校教育課	18	(5) 学校給食運営管理事業
4. 文化芸術の継承・発展による文化の向上	文化芸術を楽しめる環境構築に努める	社会教育課	19	(1) 生涯学習推進事業（文化祭・文化鑑賞）
5. ダイバーシティ教育の推進	外国語教育や多様な文化の学習を充実させる	学校教育課	20	(1) 外国語教育推進事業（英語検定補助）
	ユニバーサルデザイン環境の構築に努める	学校教育課	21	(2) 適応指導教室の運営
	バリアフリー意識の啓発・浸透に努める	学校教育課	22	(3) 特別支援教育推進事業
6. 自己肯定感・有用感の育成	異年齢で学びや交流の場を広げる	学校教育課	23	(1) 校種間連携推進事業
	地域における子どもの居場所を充実させる	社会教育課	24	(2) 子どものための地域連携事業
	子どもが地域社会で活躍できる場を創出します。			
	地域人材が学校で活躍できる場を創出する	学校教育課	25	(3) コミュニティ・スクール推進事業

## 令和4年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和3年度対象）

項目番号	1	令和3年度重点実践項目	1. 豊かな人間性の育成	
点検・評価対象とする事務事業		(1) 道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業	担当課	学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 「夢」と「志」を持ち、豊かな人間性を備えた人材を育成する。		
事業目的	自らを律しつつ他人とともに協調し、他人を思いやる心を育む。 『地域道徳』の取組により、地域社会総がかりで、実際に行動に移すことのできる道徳的实践意欲と態度を子どもたちに育むとともに、地域の教育力向上を目指す。			
事業内容	国の委託事業を活用し、道徳推進事業2年目として、八木中ブロックをモデル地域とし南丹市全域で実践研究を進めてきた。 ア. 事業推進協議会、研究推進委員会の設置 イ. スーパーバイザー（大学教授）招聘による講演等年3回 ウ. 道徳公開授業並びに事後研究会 エ. 交流報告会・パネルディスカッションの実施		達成指標	
			道徳の授業に地域・保護者が参画する。	
成果	・コロナ禍であったが、ほぼ当初の計画通りに実施することができた。 ・地域道徳という言葉が、南丹市教職員に浸透してきており、学校の教育活動や行事に関連付けられつつある。 ・大人が参画する道徳の授業は、参観日に開催することで親子道徳が開催しやすく多くの学校で開催された。 ・参画型の親子道徳は、保護者も考えさせられる場面があり、親子道徳の有効性が確認できた。 ・八木中学校区で、統一したあいさつ運動を展開することができた。		令和3年度予算額	
			665,000円	
課題	・開催された親子道徳の中には、参画型にまで至らず、参加・参観段階のものも見られた。 ・教科の道徳に関して、「考え議論する道徳」に到達できていない現状にある。 ・地域参画に向けて、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を見ながら行事を進める必要がある。		達成度	
			コロナの感染拡大影響もあり、全学校での実施は困難であった。	
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等	令和3年度 八木中学校区 道徳教育（地域道徳）研究のまとめ
意見内容	地域道徳を大きな目標に掲げており、それがだんだん定着してきていると感じた。広くみんなにわかってきてもらっている時期に入ってきている。統一したテーマを挨拶運動に決めて取り組んでいる。 「考え議論する道徳になっていない」点を課題に挙げておられるが、道徳で介入できる力、或いは南丹市で大事にしたい力とは何なのかというところを考えると地域道徳はとても重要である。			
総合評価	B	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。		
	A	※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		

令和4年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和3年度対象）

項目番号	2	令和3年度重点実践項目	1. 豊かな人間性の育成
点検・評価対象とする事務事業	(2) 共同学校事務室における事務の共同化		担当課 教育総務課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 「夢」と「志」を持ち、豊かな人間性を備えた人材を育成する	
事業目的	市内の小中学校に在籍する事務職員が事務を協働処理することにより、事務処理の適正化、学校事務の標準化・効率化、学校のマネジメント機能の強化を図る。 教職員の業務多忙化を減じ、学校が組織的に機能を高めるための共同学校事務室を運営する。		
事業内容	京都府の「京都式チーム学校推進校」の指定を受け、令和2年4月に京都府で初めて設置された。	達成指標	
	昨年度は2年目。普段各校で勤務しているが、市役所日吉支所にある専用の執務室に集まり、月1回定例会・リーダー会及び随時の職務担当別会議の開催で、適正な事務処理のために提出書類の確認や、情報収集・研修を行う。  学校の困り感から財務・人材育成・文書事務・広報の4つの職務担当別チームを作り、予算の有効活用、初任者研修の企画、文書の取扱いについて協議し、全員知恵を出し合って取り組んだ。	「安心 効果的 高め愛」 学校の総合力を挙げる 学校経営のスタッフになる 市の施策提案者になる	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財務チーム 予算の一部を共同学校事務室で管理・執行するようになり、より現状に沿った予算の有効活用が図れるようになった。</li> <li>・人材育成チーム 加配の2名が初任者指導を行いながら、事務職員のスキルアップの計画を作成した。</li> <li>・文書事務チーム 文書の整理の仕方を市内で統一することで文書管理をより適正に、また業務改善につながるよう整理した。</li> <li>・広報チーム 共同学校事務室の活動を、学校のすべての教職員に知ってもらうよう、四半期に1度の割合で広報「tree」を発行した。府教育委員会としても共同学校事務室を府全体に広げていきたいため、センター研修で南丹市の取組を紹介し、高い評価を得ている。また、推進協議会を持つことで、事務職員だけでなく府教委・市教委・学校管理職が共同学校事務室の活動内容を理解するとともに、方向性を共有できた。共同学校事務室が認識されることで、学校運営・経営への参画に弾みがついた。</li> </ul>	令和3年度予算額	
		達成度	
課題	事務職員の視点が「学校」から「南丹市」に広がり、市教委担当者との関係性もできてきたので、より良い方向へ向かう仲間として、次年度は教頭との連携を強め学校の総合力を上げていきたい。 南丹市独自の小中学校事務職員としての資質の向上に関する指標と研修計画の作成及び、それに係る府教委との連携を図る。	室長、室長補佐、調整担当職員、校長会代表、教頭会代表、教育参事、教育総務課長、学校教育課長、教育局担当課長で構成する「推進協議会」を年2回開催し、連携強化ができた。	
		令和3年度決算額	
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	広報誌「tree」
意見内容	広報誌ツリーがよく書かれている。第三者的な目線で書かれてよくわかる。「チーム学校」にぴったりの取組だと思う。		
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり	
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）	

## 令和4年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和3年度対象）

項目番号	3	令和3年度重点実践項目	1. 豊かな人間性の育成	
点検・評価対象とする事務事業		(3) 情報教育研究事業 (ICT教育・プログラミング教育)		担当課 学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉 における位置付け		実践の方向性 確かな学力の定着と論理的思考力の育成を図る		
事業目的	変化する社会を生き抜くためには、基礎的・基本的な知識を身に付けたうえで、効率よく学び、学びを表現するツールとしてICTを十分活用する。 また、プログラミング教育を通して論理的思考力を育成するとともに社会の基盤となるICTを身近なものにとらえ、思考力を養う。			
事業内容	1. 南丹市ICT教育研究会の開催（全市立小・中学校の開催） 南丹市GIGAスクール構想を推進するため、令和3年度を「活用期・実践推進期」とし、学習指導要領「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりを推進するとともに、ICTを活用したクリエイティブな授業を目指し、各校の実践研究と授業改善を推進することを第一のねらいとして、学校が中心となった研究会を開催し、自校の授業研究を推進するとともに各市立小・中学校が学び合う場とする。  2. 研究主任会議（3回）・情報教育主任会議（2回）の開催		達成指標	
			授業研究会を含む「南丹市ICT教育研究会」を開催し、授業での学習用タブレットの活用方法を各校へ波及させる。 研究主任会議により、ICTの研究推進計画への位置づけの交流を図る。	
成果	1. 南丹市ICT教育研究会 ・全小・中学校での開催 ・研究推進計画に基づいた授業 ・校内研の質の向上（他校の参加者の意見の導入） ・学校が中心となった研究会 ・研究会を通して学校を開く  2. 南丹市GIGAスクール構想（「活用期・実践推進期」） ・授業での日常的で多様な活用 ・スキル指導、情報モラル指導 ・教職員活用研修		令和3年度予算額	
			0円	
課題	授業のねらいを達成するICT教育、GIGAスクール構想の推進（令和4年度は、授業づくり・授業研究に焦点化する。） 学習用タブレットの日常的活用に伴う、使用方法、授業規律、情報モラル指導の徹底		達成度	
			公開授業を含む研究会：10回 研究主任会議：3回 情報教育主任会議：2回	
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等		令和3年度決算額
				0円
意見内容	評価の指標にしている数値が明確に出ていなかったという印象を受けた。 何を指標にしてA評価としたのか、指標に沿って測定していく方が理解しやすい。 GIGAスクールは資料を見ると南丹市は府内でも進んでいると見ていい。			
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		
総合評価	A			

## 令和4年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和3年度対象）

項目番号	4	令和3年度重点実践項目	1. 豊かな人間性の育成		
点検・評価対象とする事務事業		(4) 情報機器整備事業	担当課	教育総務課	
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 確かな学力の定着と論理的思考力の育成を図る			
事業目的	児童・生徒が、タブレット端末を使用した学習をする際の校内ネットワーク環境等の維持管理とICT機器の整備を進める。				
事業内容	小・中学校におけるICT教育環境の整備と、機器等の維持管理を行った。 〔主な業務内容〕 ・タブレット端末回線利用 ・GIGAスクールサポーター及びICT支援員の配置 ・タブレット端末保守及びセキュリティ対策ソフト等使用 ・モバイルルータ使用（校外学習及びWi-Fi環境が整っていない家庭用） ・教育用大型提示装置の整備（普通教室及び特別教室） ・教育用コンピュータ機器等リース		達成指標		
			国が進めるGIGAスクール構想を推進する。		
			令和3年度予算額		
			49,358,000		
成果	・GIGAスクールサポーター及びICT支援員の配置をしたことにより、教職員に対して学習におけるタブレット端末の活用を進めるサポートを行うことができた。 ・タブレット端末保守及びセキュリティ対策ソフト等を使用することにより児童・生徒が安心してタブレット端末学習を行うことができた。 ・臨時休校になった場合の対応として、Wi-Fi環境がない家庭にはモバイルルータを貸し出す用意ができた。また、新型コロナウイルスの感染拡大予防として自宅待機となった際のタブレット端末利用のためにルータを貸し出し、学びの保障を確保できた。 ・普通教室に大型提示装置を整備したことにより、タブレット端末を使用した双方向授業を全教室で同時に実施できるようになった。		達成度		
			タブレット端末を活用した学習を充実するため、大型提示装置の整備とネットワーク環境等の適正な維持管理を行うことができた。		
			令和3年度決算額		
			44,385,700		
課題	・機器の学習への活用・運用・セキュリティ対策については、学校及び学校教育課との連携が必要。 ・ネットワーク環境等のランニングコストの確保 ・計画的な機器の更新のための費用の確保				
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等		
意見内容	早いうちから設備投資とセキュリティを整備をされ、いよいよしっかりと活用する時期である。 目的と方法が具体的になるとともに、課題も明確になってきた段階にある。そのような中、今後は、ソフト面での指標が今後必要になってくると思う。 家庭への端末の貸し出しは、学びの保障につながっている。				
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり			
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）			

令和4年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和3年度対象）

項目番号	5	令和3年度重点実践項目	(1) 豊かな人間性の育成	
点検・評価対象とする事務事業	(5) 生涯学習推進事業		担当課	社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 生涯にわたる学習の機会と自発的な学習への参加を促進させる		
事業目的	いつでも、どこでも、誰もが学べる機会を増やし、学術及び文化に関する各種事業を行い、市民の交流と、教養の向上・健康増進等を図り、生活文化の振興・社会福祉の増進・生涯学習の推進を目指す。			
事業内容	各社会教育施設等を拠点として地域性を活かしたソフト事業を、次の通り実施。 ・音楽教室Ⅱ（9回 延べ78人）・パンづくり教室Ⅱ（2回 延べ15人）・イラスト教室Ⅱ（4回 延べ34人）・キッズ・ヨガ教室（2回 延べ13人）・編物教室（4回 延べ32人）・英会話講座（4回 延べ16人）・プログラミング教室（6回 延べ53人）・ペン習字講座（1回 16人）・クラフト講座（1回 8人） 生涯学習施設年間利用状況（件数・人数） ・園部文化会館（1,418件 22,004人） ・八木市民センター（1,271件 25,876人） ・日吉生涯学習センター（885件 16,984人） ・美山文化ホール（193件 3,674人）		達成指標 魅力ある事業を企画し、参加者及び施設利用者を増やす。	
			令和3年度予算額  644,000円	
成果	新型コロナウイルス感染症予防の観点から、年間を通して施設の利用制限を設けていたため、一部の事業について、中止もしくは縮小をせざるを得なかったが、感染予防対策を実施した上で事業実施をすることができた。特に、八木市民センターについては、利便性や立地条件の良さから利用者を増やしている。		達成度 年間延べ参加者数 265人	
			令和3年度決算額  425,919円	
課題	内容の充実を図り、様々な年代の方に参加してもらえるような魅力ある講座を企画していくため、生涯学習講座を一本化していく必要がある。参加者によるサークル化への移行や、新型コロナウイルス感染症予防のため、オンライン開催など、新たな開催方法の模索が必要。また、園部文化会館については、耐震補強に係る休館後、フルオープンした年であり、他の生涯学習施設と連携した事業展開が必要となってくる。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	令和3年度社会教育事業報告	
意見内容	コロナ禍において、水面下で努力された点は評価できる。自主サークル同士の交流を維持しながら、小さなグループの中だけでは閉塞感があるので、同じようなサークルをネットなどでつなぐことができると思う。大きな施設だけでなく、小規模な施設も維持できているところがよい。			
内部評価	B	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。		
総合評価	B	※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		

## 令和4年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和3年度対象）

項目番号	6	令和3年度重点実践項目	1. 豊かな人間性の育成
点検・評価対象とする事務事業		(6) 講座開設事業（図書館）	担当課 社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 0歳から読書で学べる環境を構築する	
事業目的	オーサービジット事業を主体に様々なアプローチで講座事業を実施することにより、読書意欲の向上を図り、生涯学習の柱の一つである読書活動の推進に寄与する。		
事業内容	①オーサービジット事業 7月4日 講師：萩原さちこ（城郭ライター）講演会 「城郭ライター萩原さちこさん直伝！なんたん城めぐり入門」		達成指標
	②図書館を利用した学び講座 ・太極拳入門 10月15日 講師：中島美都代（南丹市美山町田歌在住） ・おとなの読書会スペシャル 11月11日 講師 早川 茉莉（フリー編集者）フリー編集者 早川茉莉のトークライブ「本を創るということ」（その他） ・新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、できる範囲でおはなし会やワークショップを実施。 ・しおりマーケットの取組により図書館に通うきっかけづくりを行った。 ・おすすめ本ガーランドの取組により利用者発信のおすすめ図書交流の機会をつくることで読書意欲の向上を図った。		様々な企画を各館・室で行うことにより、本に興味を持ってもらい、来館者数、貸出冊数を増やす。
			令和3年度予算額
		312,000円	
成果	①お城との出会い方、それぞれのお城の個性の楽しみ方などを聞かせていただくことで、今後、近隣のお城を楽しんだり、お城についての図書を楽しんだりするきっかけづくりに繋がった。大人の方の参加も多く、幅広い年齢層の方に参加いただけた。		達成度
	②太極拳入門やトークライブの内容に合わせて図書の展示を行い新たな分野の図書に興味を持ってもらうきっかけづくりに繋がった。太極拳はその後も引き続き学びたいという要望があり継続して講座を開催している。  （その他）新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながらちいさい子のおはなし会や図書室のつどいを実施することができた。 日吉図書室での「大人のワークショップ」は1回当たりの参加者数を限定して複数回実施するなど工夫して開催し多くの方に参加いただくことができた。 しおりマーケットについては来館するたびに品物のシールがもらえることで通う楽しみにつなげることができた。おすすめ本ガーランドについては、カードにおすすめ図書の書名やおすすめポイントを書いてもらいそれをガーランドの形で本と共に館内に飾ることで本を手にとってもらうきっかけづくりができた。		お城めぐりの楽しみ方を学ぶことで、今後もお城に行って文化に触れたり、お城についての図書を手に取ってもらうきっかけづくりが出来た。その他にも工夫を凝らした催しを行う事で来館に繋がった。 年間来館者数：40,576人（昨年比：+17.05%）年間貸出冊数（個人）：112,671冊（昨年比：+18.08%）
			令和3年度決算額
		251,135円	
課題	新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながら、読書意欲の向上を図り、本に親しんでもらえる事業の実施に努める。多くの児童生徒や市民に参加してもらえるよう定員や回数を増やしたり、広報について、伝わりやすく工夫する。		
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	令和3年度社会教育事業報告 第2次南丹市子どもの読書活動推進計画
意見内容	お城巡りを実際にされ、講演とタイアップされたことがよい。		
内部評価	B	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）	
総合評価	A		



# 令和4年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和3年度対象）

項目番号	7	令和3年度重点実践項目	1. 豊かな人間性の育成	
点検・評価対象とする事務事業		(7) 学校司書等設置事業		担当課 学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 0歳から読書で学べる環境を構築する		
事業目的	各校に「ことばの力育成支援員（以下「支援員」と称する）を配置することで、学校図書館における読書環境の充実を図り、訪れたい図書館を目指す。また、子どもたちとコミュニケーションをとりながら読書習慣を定着させ、読書活動の推進を図ると同時に、学校での調べ学習に必要な資料を整えるなど情報センター、学習センターとしての機能の充実を図る。			
事業内容	【環境整備】 ・学校図書館用図書の見直し・購入と配架の工夫。 ・学校図書館における掲示物の工夫による読書環境の改善と読書意欲の喚起。 ・感染症対策を徹底し、安心・安全な読書環境の整備。 【貸出業務】 ・児童生徒への図書の貸し出し、返却に関する業務。 ・お勧め図書等、児童生徒への本の紹介と読書の啓発。 【学校教職員との連携】 ・調べる学習等における教職員に対する支援 【子どもの居場所】 ・貸し出し業務に付随して、子どもの心に寄り添い、子どもたちに安心できる場所を提供する。 【会議・研修】 ・年間4回（うち1回は研修会）の支援員会議を開催し、取り組みや課題を共有化し、対策を考えたり、資質能力の育成を図る。		達成指標	
			・新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、学校図書館の開館日数を確保する。 ・読み聞かせ、ブックトーク、おすすり本紹介など、児童生徒に対する働きかけの機会を確保する。	
		令和3年度予算額		11,938,000円
成果	【環境整備】 ・昨年度の経験を生かし、コロナ禍の中にあっても安全を確保しつつ学校図書館の開館及び活用を確保した。 ・南丹市立図書館との連携により、小中学校向け団体貸出及び南丹市立図書館・学校図書館連携図書の購入等の事業をうまく活用し読書環境の充実に努めた。 【貸出業務】 ・新型コロナウイルス感染症に伴う対策は、貸出業務の難しさにもつながっていたが、前年度の経験を生かし、各校の状況に応じて貸出業務を工夫して取り組むことで、児童生徒の学校図書館の利用の落ち込みを下支えすることができた。 【読書活動の活性化に向けた新たな取り組み】 ・自己の読書活動を振り返り、次の読書につなぐために読書記録を市内の全小中学校（中学校は推奨）に導入した。 ・「きらり・本のことば」コンクールを友達におすすめ本を紹介する取り組みに改編し、前年度の1.5倍の応募を集めた。 【学校の教員との連携】 ・南丹市小・中図書館教育主任会議を開催し、教員と支援員の役割の違いと連携の重要性について再認識させることができた。		達成度	
			・緊急事態宣言下では、開館の制限を行った学校もあったが、前年度の経験を生かして図書館の開館日数は一定確保できていた。 ・特に、緊急事態宣言下では、児童生徒を集めることが困難であったため、読み聞かせ等の機会確保ができず、年間を通してみると、当初予定回数を確保できなかった。	
		令和3年度決算額		10,925,716円
課題	【新型コロナウイルス感染症に関して】 ・感染拡大防止策は、基本的に行動の制限を伴い、自由な読書活動には足かせとなる面がある。現在、支援員が学校と連携して工夫しているが、従来型の発想では限界がある。 【学校教職員等との連携】 ・本年度は、南丹市小・中学校図書館教育主任会議を開催して、各校の具体的な連携状況を振り返り・交流して、支援員との連携の在り方を協議した。しかし、日常的な連携に向けては課題が残る。 【市立図書館による学校支援の新しい取り組み】 ・市立図書館が持つ専門性とリソースを学校教育に生かすべく「疑問カード」（仮称）と名付けた取り組みを支援員をキーパーソンの一員として計画している。現時点では、小学校1校で試行中であるが、他校に拡大する上での課題が顕在化しており、その課題を克服し、他校での本格実施につなげる必要がある。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等		
意見内容	ことばの力支援員と教員の連携が進んできたところがよい。安定して活動が維持できている。			
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体的な成果はなかった）		
総合評価	A			

令和4年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和3年度対象）

項目番号	8	令和3年度重点実践項目	2. 安心して学べる環境の構築	
点検・評価対象とする事務事業	(1) 生徒指導の3機能を生かした指導の充実		担当課	学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 人権が尊重されるまちづくりの推進		
事業目的	いじめや生徒指導事象の未然防止と解決のため、児童生徒の自己存在感・有用感を高め、共感的人間関係を育み、自己決定を大切にしたい組織的な指導の充実を目指す。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>南丹市小・中学校生徒指導主任会議を定期的開催し、いじめや生徒指導事象の原因や背景など児童生徒理解を深め、組織的に対応する研修を行い、各校で波及させる。</li> <li>南丹市いじめ防止等対策委員会を定期的開催し、いじめに関する取組について助言をいただき、各校の取組に生かす。</li> </ul>		達成指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導主任を対象とした研修会を複数回実施する。</li> <li>定期的に対策委員会を開催し、外部からの評価指導を受け各校の指導に生かし、いじめの解消率を向上させる。</li> </ul>
			令和3年度予算額	167,000円
			達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導主任を対象とした研修会を2回実施できた。</li> <li>定期的に対策委員会を開催し、その都度評価や指導を受けることができ、いじめの解消率が向上した。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>5月28日に南丹教育局の指導主事を講師に生徒指導上の諸課題の対応についての研修、2月1日に市立学校長を講師に事例を通して積極的な生徒指導について研修を実施し、指導方法や対応について理解を深め各学校に波及できた。</li> <li>南丹市いじめ防止等対策委員会を2回開催し、教育委員会や学校の取組に対する委員からの助言を生かし、学校現場等にフィードバックすることで、各校のいじめの未然防止等の取組に生かすことができた。</li> </ul>		令和3年度決算額	64,378円
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>GIGAスクール構想により児童生徒一人一台タブレットが支給され、活用する機会が増えた。一方ネットによる問題事象が増加しており、児童生徒だけでなく教職員についても情報モラルの徹底が急務である。</li> <li>学校生活全体の指導において、生徒指導の3機能を活かした指導の研修が必要である。</li> </ul>			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等		
意見内容	<p>小学校から中学校への接続がスムーズにしているのは教員の努力のたまものである。いじめ調査については、これだけの解消率は府下でも高い比率であり、解消率が向上している点は評価できる。</p>			
内部評価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。</li> <li>※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。</li> <li>※評価の判断基準は下記のとおり</li> </ul>		
総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた）</li> <li>B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた）</li> <li>C（課題を残し、目標も充分達成できなかった）</li> <li>D（検討段階に止まり具体的な成果はなかった）</li> </ul>		

令和4年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和3年度対象）

項目番号	9	令和3年度重点実践項目	2. 安心して学べる環境の構築	
点検・評価対象とする事務事業	(2) 人権教育事業（人権教育講座）		担当課	社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け	実践の方向性			
	人権が尊重されるまちづくりの推進			
事業目的	人権に関する学習機会を提供し、市民の人権意識の高揚を図ることを目的とし講座を実施する。			
事業内容	例年、年3回実施していた人権教育講座は、新型コロナウイルス感染症予防のため、1講のみWeb配信にて開催。 第1講…日時：令和3年6月5日（土）午後1時30分から 会場：南丹市園部文化会館「アスエルそのべ」大ホール 講師：土田 光子さん（大阪大学非常勤講師） 演題：『自分を好きになる力・自分を生かそうとする力～とじられた殻がみずみずしく開かれるまで～』		達成指標	参加者を増やし、人権に関する知識を深める。
			令和3年度予算額	460,000円
成果	新型コロナウイルス感染症予防の観点から、不特定多数が集まる人権教育講座について中止やWeb配信の判断をせざるを得なかった。		達成度	年3回のうち2回の講座を中止としたため、人権に関して学習する機会を提供することが難しかった。
			令和3年度決算額	124,495円
課題	人権学習を意欲的に取り組んでもらえるように内容の充実を図り、幅広い世代の方々が参加してもらえるような機会を作るとともに、新型コロナウイルス感染症予防のため、オンライン開催やテレビ放送など新たな開催方法を検討していくことが必要である。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	令和3年度社会教育事業報告書	
意見内容	人権の問題は、親子道徳、生徒指導などの基本テーマでもある。 この3回の人権講座を独立したものにしておくのではなく、いろいろなところと連携していくことも維持・継続していく中でひとつの方法と考える。 コロナ禍でできなかったことは事実であり、出来なかった理由をはっきり書いておく必要がある。来年度は人権講座をしっかりと実施してもらいたい。			
内部評価	B	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	B	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体的な成果はなかった）		

令和4年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和3年度対象）

項目番号	10	令和3年度重点実践項目	2. 安心して学べる環境の構築	
点検・評価対象とする事務事業	(3) 児童生徒就学支援事業		担当課	学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 子どもを地域社会総がかりで守る仕組みを整える		
事業目的	経済的な理由により就学が困難な家庭の保護者に対し、就学に必要な援助を行う。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内在住であり、市内の小・中学校に在籍する児童生徒の保護者に対して学用品費や学校給食費などの援助を行う。</li> <li>・経済的に就学が困難な家庭が適切に漏れなく援助が受けられるように、計画的に制度の周知を図る。</li> <li>・学校管理下で発生した児童生徒の不慮の災害に備える制度であるスポーツ振興センター掛金の補助を行う。</li> <li>・高等学校等進学に係る修学支援制度の周知を図る</li> </ul>		達成指標	
			制度周知 ①全校あてチラシ配布1回 ②新入学児あてチラシ配布1回 令和3年度予算額 32,925,000円	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての児童生徒に対し教育機会を均等に提供できるよう、経済的な理由により就学が困難な家庭の保護者に対し就学援助費の助成を行い、経済的負担を軽減し就学を支援した。</li> <li>・特別支援教育就学奨励費の助成を行い、特別支援学級へ就学する児童生徒の保護者の経済的負担を軽減した。</li> <li>・新入学学用品費支給時期の前倒しを行い、小中学校入学前の経済的負担を軽減した。</li> <li>・経済的な困窮により、学校給食費が滞っていると思われる家庭に対し、制度説明を繰り返し行い、就学援助に繋げた。</li> </ul> 【参考】就学援助率（準要保護）：H30…12.52%、R1…12.48%、R2…12.52%、R3…13.42%		達成度	
			制度周知 ①全校あてチラシ配布1回 ②新入学児あてチラシ配布1回 令和3年度決算額 31,855,701円	
課題	真に必要としている世帯が援助を受けられることができるよう、引き続き制度の周知を図る必要がある。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等		
意見内容	就学前支給による支援は、大変南丹市らしいきめ細かい配慮がされてる。特別支援教育就学奨励費支給も配慮ができています。			
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		

## 令和4年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和3年度対象）

項目番号	11	令和3年度重点実践項目	2. 安心して学べる環境の構築	
点検・評価対象とする事務事業		(4) 長寿命化計画、安全・安心な学校教育環境整備事業		担当課 教育総務課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 児童生徒が安心して学び、生活する場の計画的な整備		
事業目的	児童・生徒が安心して学校生活を送れるよう、老朽化対策や質的整備を進め、教育施設の適正な維持保全を行う。			
事業内容	八木東小学校の体育館トイレ新築工事及び4中学校の特別教室等空調設備新設工事を実施した。		達成指標	
	〔主な業務内容〕 ・八木東小学校体育館トイレ新築工事監理業務 ・中学校特別教室等空調設備新設工事設計業務 ・中学校特別教室等空調設備新設工事監理業務 〔主な工事内容〕 ・八木東小学校体育館トイレ新築工事 17,389,900円 ・中学校特別教室等空調設備新設工事 44,561,000円		安全で快適な教育環境をつくるため、工事設計や工事を行う。	
			令和3年度予算額	
成果	・八木東小学校体育館トイレの設置により、体育館及び屋外での授業時における児童のトイレの利用がしやすくなり、また、体育館を避難所として使用する際に避難者のためのトイレを整備することができた。 ・中学校特別教室等空調設備整備工事を実施したことにより、夏の熱中症予防や冬の暖房の整備ができ、学習環境の質的な向上を図ることができた。 4校15室（家庭科室、理科室、音楽室、美術室等）		達成度	
			工事設計及び工事を実施することにより、安全・安心な学校施設の整備を進めることができた。	
			令和3年度決算額	
			71,006,300円	
課題	教育施設長寿命化計画に基づき施設整備を進めるためには、施設の状況を的確に把握し、学校や企画財政課などと連携を図りながら施設長寿命化計画の推進体制を作ることが必要となる。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等		
意見内容	計画通りに実施できたことは評価できる。			
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		
総合評価	A			

## 令和4年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和3年度対象）

項目番号	12	令和3年度重点実践項目	2. 安心して学べる環境の構築		
点検・評価対象とする事務事業		(5) 通学安全対策事業	担当課	学校教育課	
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 学校や生涯学習施設の安全対策を図る			
事業目的	通学バス及びJRの定期券、中学校自転車通学費及び自転車通学用ヘルメット購入費補助、スクールバスの運行、交通安全対策グッズの配布並びに通学路危険箇所安全対策の調整等を行い、南丹市立小・中学校児童生徒が安全安心に通学できる環境を整える。				
事業内容	<p>○園部・八木・美山管内の小学校で遠距離通学となる児童についてスクールバスを運行し、遠距離通学の負担を軽減するとともに安全を確保する。</p> <p>○小・中学校児童生徒の通学時の安全対策として以下を支給。 （小学校新1年生）交通安全帽子・防犯ブザー・安全鈴 （中学校新入生の自転車通学者）ヘルメット購入補助金</p> <p>○南丹市立中学校に通学する生徒のうち、遠距離の通学が必要で、路線バス・JR・自転車（6km以上）を利用する者に対して以下のとおり補助を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バス・JRを利用する生徒へ定期券を現物給付</li> <li>・自転車通学者へは、年額10,000円の補助金を交付</li> </ul> <p>○通学路交通安全プログラムに基づいた通学路危険箇所安全対策の調整</p>		達成指標		
			<p>通学における事故発生数ゼロ。 各種補助事業の実施 通学路危険箇所安全対策進捗確認</p>		
			令和3年度予算額	152,964,000円	
成果	<p>○園部・八木・美山管内の小学校で遠距離通学となる児童について、スクールバスを安全に運行することができた。また、昨年度に引き続きコロナ感染症対策として、バスの運行等を実施した。</p> <p>○小・中学校児童生徒の通園・通学時の安全対策として以下を支給することができた。</p> <p>（小学校新1年生）交通安全帽子・防犯ブザー・安全鈴 （中学校新入生の自転車通学者）ヘルメット購入補助金</p> <p>○南丹市立中学校に通学する生徒のうち、遠距離の通学が必要で、路線バス・JR・自転車（6km以上）を利用する者に対して以下のとおり補助を行うことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バス・JRを利用する生徒への定期券の現物給付</li> <li>・自転車通学者へ、年額10,000円（夏季のみは5,000円）の補助金の交付</li> </ul> <p>○通学路交通安全プログラムに基づいた通学路危険箇所安全対策について、関係機関と危険箇所の合同点検を実施した。</p>		達成度		
			<p>各種補助事業を滞りなく実施できた。 通学路危険箇所安全対策については、常に進捗を確認し、他の関係機関との連携及び推進会議を実施することができた。</p>		
			令和3年度決算額	149,464,038円	
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通学時の事故が9件（うち治療に要する期間：1週間以内のケガ5件、2週間以内のケガ1件、3週間以内のケガ3件）が発生した。</li> <li>・通学路の危険箇所のハード的な改善は、各機関が限りある予算の中、費用対効果を勘案しながら整備している。施設整備で対応できないところは学校等から交通安全指導を実施している。今後も一層、児童生徒自身がしっかりと危険性を認識できるよう交通安全の指導が必要である。</li> </ul>				
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等			
意見内容	どこの市町村も通学対策には力を入れているが、事故発生数を「0」にすることは難しい。指標を変えてもいいのでは。				
内部評価	B	<p>※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり</p> <p>A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体的な成果はなかった）</p>			
総合評価	B				

令和4年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和3年度対象）

項目番号	13	令和3年度重点実践項目	2. 安心して学べる環境の構築	
点検・評価対象とする事務事業	(6) 社会体育振興事業・青少年スポーツ育成事業		担当課	社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 生涯にわたって誰もがスポーツを楽しみ、文化に親しめる仕組みを整える		
事業目的	年齢・体力や目的に応じ、「誰もが・いつでも・どこでも・身近に・いつまでも」スポーツに親しめる生涯スポーツの推進を図ることで、市民ひとりひとりが、健康でいきいきと元気な生活を送ると同時に、地域社会の絆の深まりを創りあげる。			
事業内容	<p>①南丹市スポーツ協会やスポーツ少年団と連携し、競技力の向上と普及活動を図る。また、総合型スポーツクラブにおいては、地域スポーツの推進を図る。</p> <p>②スポーツ少年団だより「なんすぽジュニア」の発行及びPV撮影とスポーツ少年団の指導者や保護者、スポーツ推進委員による講習会を実施する。</p> <p>③東京オリンピック・パラリンピックを機にトップアスリートによる記念講演会を開催し、スポーツへの関心と親しみを深め、元気なまちづくりを図る。</p>		達成指標	<p>京都丹波トライアスロンでボランティアスタッフを募り「観る・支える」スポーツの支援を図る。</p> <p>府民総体全競技に参加し、総合順位15位以内を目指す。</p> <p>スポーツ少年団指導者の質の向上を図る。</p>
			令和3年度予算額	56,043,000
成果	<p>①京都丹波トライアスロンについては新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったが、今後もスポーツ協会やスポーツ少年団と連携し、ボランティアスタッフとして、市民が大会を支える側として競技に触れあう機会を設けたい。また、府民総体については新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から中止になる種目がある中、11種目に代表の派遣ができた。なお、5種目以上が中止となったため、総合成績についても中止となった。</p> <p>②「なんすぽジュニア」の発行及びPVを撮影し、南丹市YouTube及びHPで南丹市で活動するスポーツ少年団の紹介をすることができた。また、「幼少期におけるアクティブ・チャイルド・プログラム」について事業を実施することができた。</p> <p>③オリパラ記念講演会については、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。</p> <p>④常に施設の点検を行い、安全確保を図ることができた。</p>		達成度	<p>スポーツ少年団の指導者及び保護者を対象にアクティブ・チャイルド・プログラムの講習会を開催した。</p>
			令和3年度決算額	51,855,270
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでスポーツに関わりのない市民へのアプローチを工夫し、スポーツを身近に感じ関わりをもってもらえるよう取組みを推進する。</li> <li>幼少期から遊びの中に運動の基礎となる動きを取り入れ、様々な経験ができる場を子どもたちに提供し、スポーツの好きな子どもを育てることが必要。</li> <li>施設の老朽化による不具合や機械の故障などの事象が多く、対策が必要である。</li> </ul>			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	令和3年度社会教育事業報告 南丹市スポーツ推進計画	
意見内容	<p>コロナ禍の中止はやむを得ない。中止になったことに対して、支援できなかったのであればBとなる。</p> <p>事業自体のあり方を見直すことができれば良かったのではないか。</p>			
内部評価	B	<p>※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。</p> <p>※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。</p> <p>※評価の判断基準は下記のとおり</p>		
総合評価	B	<p>A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた）</p> <p>B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた）</p> <p>C（課題を残し、目標も充分達成できなかった）</p> <p>D（検討段階に止まり具体的な成果はなかった）</p>		

## 令和4年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和3年度対象）

項目番号	14	令和3年度重点実践項目	3. 「地域を学ぶ、地域で学ぶ」環境の創出
点検・評価対象とする事務事業	(1) 講座開設事業 (地域学芸員養成講座ほか)		担当課 社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け	実践の方向性 地域資源（重要文化財や歴史資産）を学べる環境を整える		
事業目的	森の京都「なんたん」エコミュージアム実行委員会が主体となって地域の歴史・文化を学び観光ボランティアとして地域学芸員を要請する講座に、市教育委員会も参画し講座開設に携わる。 具体的には住民一人ひとりが学芸員を目指してフィールドワークも交えて文献や遺物はもちろん、行事、祭礼、芸能、芸術、民話などさまざまな形で今に残る有形・無形のモノ（資料）から地域の歴史を学び、地域の観光ボランティアとして活躍できる学芸員を養成する。		
事業内容	令和3年度は「地域学芸員養成講座」等を開催、大学講師や歴史研究家などを招聘し、専門的な講義とフィールドワークを行う。実施講座数：全6回（6日間）、公開講座：全2回（2日間）	達成指標	
	【地域学芸員養成講座】 ・第1回（10/21）「京都丹波高原国定公園の取組み」 ・第2回（10/27）「北近畿の佛教勢力」 「美山の仏像とその周辺」 ・第3回（11/1）「諏訪神社の祭礼・芸能」 ・第4回（11/11）「北山型」民家の遺構－石田家住宅 フィールドワーク ・第5回（11/17）匠の技「美山のかやぶき」 「美山町北伝建地区 美山かやぶきの里」 ・第6回（11/26）「美山の建築文化 寺社を中心に（北八幡神社他）」  【公開講座】 ・第1回（11/7）「芦生の森からの恵み」 「芦生の森－過去・現在・未来を創造する－」 ※講演後、南丹市文化博物館でのギャラリートーク ・第2回（11/13）「美山の火祭り－上げ松－」	南丹市の文化遺産を活用した新たな経済活動の創生を目指すため、観光ボランティア（地域学芸委員）20人以上を養成する。	
成果	・10月から地域学芸員養成講座を開講し、全6回、8講座の延べ受講者は92人、公開講座は、全2回、3講座、延べ受講者60人であった。全講座受講した14人に修了書を交付した。 ・養成講座の講師となった大学教授や専門家から、南丹市内に現存する文化遺産は全国的に貴重な資料が多く、後世に守り伝えてる取り組みを継続して欲しいと助言を得た。	令和3年度予算額	
		0円	
課題	・5年計画である本事業は、新型コロナウイルス感染症の影響やテーマ設定もあり、3年目である本年は受講生が減少した。新しい生活様式の中、受講生を獲得していく手段の検討が必要である。 ・地域学芸員は5年間かけて養成していくことになっているが、その後の取り組み内容をどのような形で継承し、発展させていくかが課題となっている。	達成度	
		全講座受講者数14人	
		令和3年度決算額	
		0円	
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	令和3年度社会教育事業報告
意見内容	実行委員会を立ち上げ、大変高度な講座を継続されている。全講座受講が14人あったことは成果がある。5年間でマスターを育てることを支援して欲しい。		
内部評価	B	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり	
総合評価	B	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体的な成果はなかった）	



令和4年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和3年度対象）

項目番号	15	令和3年度重点実践項目	3. 「地域を学ぶ、地域で学ぶ」環境の創出	
点検・評価対象とする事務事業	(2) 重要伝統的建造物群保存地区保存修理補助事業及びかやぶき屋根保存修理補助事業		担当課	社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 地域資源（重要文化財や歴史遺産）を学べる環境を整える		
事業目的	<p>国の重要な文化財である美山町北重要伝統的建造物群保存地区を保全する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区における建造物及び環境物件の管理、修理、修景または復元について、所有者に対してその経費の一部の補助を行う。</li> <li>・美山町内に現存する茅葺民家を保存するため補助事業を実施する。</li> </ul> <p>いずれも補助金を交付することにより、地域の景観並びに環境の保全を図る。</p>			
事業内容	<p>【重要伝統的建造物群保存地区保存修理補助事業】 美山町北は国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されており、日本古来の景観が良好な形で残されている。その保全について国や府と協力しながら事業を進め、6件の修理を実施。 主屋茅葺屋根修理（4件）、離れ修景（1件）、主屋庇修理（1件）</p> <p>【かやぶき屋根保存補助事業】 美山町は国内でも茅葺屋根の残存度が高いとされており、日本古来の景観が残されている。その保全を図るために補助事業を進め、2件の修理を実施。</p>		<p>達成指標</p> <p>【重伝建地区保存修理補助事業】 修理・修景事業について景観に配慮した事業を進める。 【かやぶき屋根保存補助事業】 また、美山町内の修理事業を進めると共に南丹市全域に広げるための要綱の整備を行う。</p>	
			<p>令和3年度予算額</p> <p>11,635,000円（重伝建） 2,133,000円（かやぶき）</p>	
成果	<p>【重要伝統的建造物群保存地区保存修理補助事業】 周囲の景観に調和するように工事をを行い、維持・管理が行えた。</p> <p>【かやぶき屋根保存補助事業】 補助事業がなければ維持することが難しい茅葺屋根の民家を残すことが出来た。</p>		<p>達成度</p> <p>【重伝建】9件の修理・修景事業を文化庁・京都府と調整し進めることが出来た。 【かやぶき屋根】2件の修理事業を進めることが出来た。また、次年度以降に南丹市全域に広げる要綱の整備も行った。</p>	
			<p>令和3年度決算額</p> <p>11,572,207円（重伝建） 2,133,000円（かやぶき）</p>	
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統的建造物群保存地区の中でも空家が増加しており、地区の景観を守る上で大きな課題となってきている。茅葺屋根は日本古来からの屋根形態であり、現状を保護することは景観形成上大きな成果をあげている。</li> <li>・茅葺を葺き替える際には、補助金を交付することにより所有者にとっては多少費用負担が軽減されるが、元の費用が年々増加している。</li> </ul>			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	令和3年度社会教育事業報告	
意見内容	<p>「地域を学ぶ、地域で学ぶ」という視点から、学習の中でどのように活用するか。かやぶき屋根の修復を地元の子供たちが手伝うことなどがあれば、南丹市美山らしい取り組みとして、他地域から目を引くことができる。</p> <p>調査によってわかったことを伝えたり、ハードの補修から少し視点を変えることも新しい視点になる。今回の補修のポイントを教材にして、子どもたちにつなぐ取り組みができれば良いと思う。</p>			
内部評価	B	<p>※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。</p> <p>※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。</p> <p>※評価の判断基準は下記のとおり</p>		
総合評価	B	<p>A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）</p>		

## 令和4年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和3年度対象）

項目番号	16	令和3年度重点実践項目	3. 「地域を学ぶ、地域で学ぶ」環境の創出	
点検・評価対象とする事務事業		(3) 展示会事業	担当課	社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 市の文化財の魅力の創出と発信を行う		
事業目的	南丹市にまつわる歴史的・文化的な資料を中心に紹介する展示会を開催することにより、市民の学習意欲を刺激し、生涯にわたっての学習の機会を提供する。 地域をより深く知るにより、郷土への愛着心を醸成する。			
事業内容	(文化博物館) 秋季展「森と共に生きる」は、芦生研究林設立100年を記念して、研究林のある美山町知井地区の歴史民俗に焦点を当てて開催した。館独自の体験事業やギャラリートークなども実施した。このほか、森の京都「なんたん」エコミュージアム実行委員会とも連携し、各種講座、シンポジウム等の連携事業も展開した。  (日吉町郷土資料館) 夏季展「戦争—忘れてはいけないこと、語り継がねばならないこと—」は、毎年夏に開催している戦争をテーマとして実施した。メインテーマ「満蒙開拓青少年義勇軍」とし、学校日誌や写真等で戦時下の教育などについても紹介し、期間中講演会も実施した。		達成指標	
			文化博物館秋季展入館者、700人以上。 郷土資料館夏季展、300人以上。	
成果	・秋季特別展「森と共に生きる—知井地区を中心に—」 期間：令和3年10月16日～12月5日 開館日数：44日 展示点数：約120点 入館者数：1161人 関連事業：10/24：芦生研究林散策（20人） 11/3・12/4：ギャラリートーク歴史編（延べ18人） 10/31・11/6・11/14・11/20・11/21・11/27 ギャラリートーク絵画編（延べ180人） 11/7：VRゴーグル体験（38人）、 10/30：身近な風景を描こう（9人）  ・夏季企画展「戦争—忘れてはいけないこと、語り継がねばならないこと—」 期間：令和3年7月17日～9月12日 開館日数：42日 展示点数：140点 入館者数：346人 ・展示内容や、ギャラリートークなど新たな取り組みをすることで広報に力を入れ、多くの参加者があった。		達成度	
			(文化博物館) 秋季展では、地域やゆかりのある人々と連動事業を展開した成果もあり、多くの来館者を迎えることができた。 (日吉町郷土資料館) 夏には戦争展を実施している印象を利用者に定着できている面において成果があると感じている。	
課題	・文化博物館秋季展では、南丹市にゆかりのある作家に芦生研究林内の植生を取材し、作品として展示いただいた。このため新型コロナウイルス感染症等の影響はあったものの、近年の展示会に比べると多くの利用者を迎えることができた。こうした参加型の取り組みをどのように継続していくか課題が残る。 ・日吉町郷土資料館の夏季展については、平成24年から戦争をテーマとしており、今後も内容を変えながら事業の継続を図っていく。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	令和3年度社会教育事業報告	
意見内容	企画のテーマが、市の歴史、ゆかりの人物など、主張できている。 アイデアとしては、これまでの事業展開につながりがあるので、事業年表のようなものを作って、学校へ渡すことや、市民へ公表するといったようにすると展示会の意義が出てくる。 5年生になったら展示を見に行くというのを定期的にするれば、地域に対して子どもたちの目が向く。			
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		

令和4年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和3年度対象）

項目番号	17	令和3年度重点実践項目	3. 「地域を学ぶ、地域で学ぶ」環境の創出	
点検・評価対象とする事務事業	(4) 文化財維持管理事業		担当課	社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 市の文化財の魅力の創出と発信を行う		
事業目的	文化財を保全するために市内にある貴重な歴史遺産の保全に対する補助を行う。 国の重要伝統的建造物群保存地区における防災施設の維持管理事業や、重要文化財である石田家住宅について、保存と公開を進めるため施設管理を保存会に委託する。			
事業内容	(調査事業) ・経年劣化や災害による被災状況を確認し、専門家や京都府と相談しながら各補助事業を活用し文化財を保存していくための補助事業事前調査と、未指定である文化財の価値を調査し文化財として位置づけて後世に伝えるための価値調査に分けられる。社寺等の修理事業を27件実施した。 ・市内の社寺や民家について国登録文化財候補として、4か所測量等を実施した。 ・昨年度に引き続き大谷大学や京都美術工芸大学と連携し、調査や修理事業を実施。石田家住宅（重要文化財）の公開などを保存会に委託し実施した。 (普及啓発事業) ・紹介する取り組みとして、生涯講座の1つとして開催される歴史講座や体験講座を年1～2回程度実施するとともに、年度末に文化財調査報告書の刊行を行う。		達成指標	
			専門家や地域と連携し、文化財の調査や修理を進め後世に引き継いでいく。  令和3年度予算額  11,208,000円	
成果	・補助事業事前調査を行うことにより、京都府関係の補助事業を実施することが出来た。 ・大学との連携においては、京都美術工芸大学と地元（殿田区）と連携して仏像修理を行った。 ・国登録文化財候補の現地確認を実施し、今後申請を進める。 ・普及啓発事業 石田家住宅管理運営業務（石田家住宅保存会へ委託）1,033人/91日		達成度	
			大学や地域と共同で修理事業を行うことが出来た。  令和3年度決算額  8,398,262円	
課題	市内には多くの文化財があり、指定されているもの以外にも貴重な有形・無形の文化財が継承されてきている。それらの保存のための基礎的な調査や普及啓発活動を行っているが、さらに継続した調査を進め、本市ホームページを活用した広報活動も行う。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	令和3年度社会教育事業報告	
意見内容	石田家住宅の保存だけでなく啓発に力を入れているのがよい。 かやぶき民家も含めて、次世代への継承ということを考えると、歴史好きな人だけでなく広く子どもたちに周知し、学社融合を進めてほしい。			
総合評価	B	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
	B	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		

# 令和4年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和3年度対象）

項目番号	18	令和3年度重点実践項目	3. 「地域を学ぶ、地域で学ぶ」環境の創出	
点検・評価対象とする事務事業		(5) 学校給食運営管理事業		担当課 学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 さまざまな学習機会を創出する		
事業目的	<p>・児童生徒の心身の健全な発達及び食育の推進を図るため、栄養価はもとよりバランスの取れた献立による安全安心な学校給食を提供する。</p> <p>・地域で活躍する人、地域の食や食材、地域社会を支える仕組みなど、地域社会で受け継がれてきたことや、地域を支えてきた「人・もの・こと」を広め、発展・継続していくような様々な学習機会を創出する。</p>			
事業内容	市内7小学校、4中学校（約2,400食）に安全な給食を提供するため、学校給食衛生管理基準に照らし、適切な衛生管理のもと給食調理を行う。 （地産地消・食育推進） 給食で地場産物を使用することにより、食に関する感謝の心や、地域とのつながりや愛着を深める。  （安全な給食を提供する取組み） ・衛生管理（調理作業）マニュアルの遵守 ・調理器具や施設設備の点検や維持管理 ・学校給食従事者の健康管理 ・衛生管理研修会の実施  （会計運営） 食材の適切な購入および給食費の適切な徴収管理		達成指標	
			南丹市給食指導年間計画に基づき、学校給食を通じた食に関する指導を行う。 食中毒の事故発生ゼロ。 学校給食費の徴収率98%以上。 施設管理不備による給食停止ゼロ。	
			令和3年度予算額	
				322,546,000円
成果	（地産地消・食育推進） 各調理場ごとの地場産物利用率を算出し、利用率向上に向けた新たな取り組みとして、地元生産者や農家を訪問して栽培状況などを聞き取り、新しい品目の活用に繋げた。また、訪問した内容を「地産地消だより」としてまとめ各校に配布することで、児童生徒の地元食材や農業への関心を高めた。 *地場産物利用率 28.4%  （安全な給食を提供する取組み） 調理作業工程表や作業動線図による衛生管理や異物混入防止に向け、日々の作業前後及び長期休業時の器具・設備点検を徹底して実施した。また、全調理従事者を対象に、各調理場ごとに衛生研修会を実施することで、安全性の高い給食提供につなげることができた。  （会計運営） 米飯給食を基本とし、地元食材の活用を意識した食材の購入に努めた。		達成度	
			「令和3年度 南丹市『食に関する指導』年間計画」に沿った学校給食を実施した。 食中毒の事故発生ゼロ。 学校給食費の徴収率100%。 施設管理不備による給食停止ゼロ。	
			令和3年度決算額	
				317,141,739円
課題	・調理場の老朽化による機器の故障や修繕案件が頻発しており、施設修繕や設備更新に多額の経費が必要となるため、今後の施設運営の方向性について検討が必要である。 ・直営調理場における調理員などの人員管理や確保に苦慮している。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等	
意見内容	指標を子どもたちが給食を楽しいかおいしいと思った率にするとか、残さい率がどのくらいかという、前向きな明るい指標にしていけばよいのではないかと。地産地消だよりはコンパクトにまとめられておりよかった。この取り組みが指標の中に入っているとよかった。			
内部評価	B	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	B	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体的な成果はなかった）		

## 令和4年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和3年度対象）

項目番号	19	令和3年度重点実践項目	4. 文化芸術の継承・発展による文化の向上		
点検・評価対象とする事務事業		(1) 生涯学習推進事業(文化祭・文化鑑賞)	担当課	社会教育課	
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 文化芸術を楽しめる環境構築に努める			
事業目的	社会教育施設、特にホール施設を活用して、文化協会等の各種団体と連携しながら、市民が文化芸術に触れる機会を設けて、地域文化力の向上を図る。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園部文化会館再開館式（緊急事態宣言中のため予定していた舞台発表を中止して、関係者のみ17名でテープカット、内覧会を実施）</li> <li>・各町文化協会との共催で文化祭（ステージ発表・作品展示）を実施（園部・八木：無観客又は関係者のみで実施 日吉・美山：中止）</li> <li>・各施設にて住民の作品展示を通年実施</li> <li>・市民対象の映画上映会（中止）</li> </ul> <p>〈下記の2事業は市制15周年記念事業も兼ねて実施〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オペラ「内藤ジョアン」（3回上演 来場者数：599人 ※八木西小学校児童4名がダブルキャスト、12名が合唱団として出演）</li> <li>・NHK文化セミナー「日本の最強の城スペシャル」講師 千田嘉博さん（来場者数：168人）</li> </ul>			達成指標	魅力ある事業を企画し、参加者及び来場者を増やす。
				令和3年度予算額	3,189,000円
成果	新型コロナウイルス感染症予防の観点から、一部の事業について、事業規模の縮小または中止をせざるを得なかったが、感染予防対策を実施した上で事業実施をすることができた。			達成度	年間参加者数延べ767人
				令和3年度決算額	3,118,190円
課題	安全面の確保を最優先で考えながらも、市民が文化芸術に触れる機会を少しでも増やすために、「新しい生活様式」を基本としつつ、オンラインなどを活用した新たな開催方法の模索が必要。				
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	令和3年度社会教育事業報告		
意見内容	15周年の記念事業を企画・実行されよかった。そこに児童もキャストで参加されて、文化に実際に触れたという点は評価できる。				
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり			
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）			

令和4年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和3年度対象）

項目番号	20	令和3年度重点実践項目	5. ダイバーシティ教育の推進	
点検・評価対象とする事務事業	(1) 外国語教育推進事業		担当課	学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 外国語教育や多様な文化の学習を充実させる		
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国語教育では、外国語の習得だけでなくコミュニケーションを図る能力を高めながら、国内外文化的多様性や相互理解の充実を図る。</li> <li>新学習指導要領に対応した教育内容を確実に浸透させる。</li> </ul>			
事業内容	ALTの配置： 5名 総時間 1,085時間 英検受験(補助対象)人数 134名 中学校英語科教員研修(年1回実施) 外国人講師を招くなど、外国文化に触れる機会を設定し、学び動機づくりを市内各校で進める。		達成指標 外国人講師とのコミュニケーション回数を設定し、異文化理解への意欲を高め、英検受験(補助対象)者を昨年度より増やす	
			令和3年度予算額 4,526,000円	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>予定していた公開授業を伴う南丹市中学校英語研修を殿田中学校で開催する予定であったが、緊急事態宣言が発令されていたため、急遽授業を録画してビデオ視聴による研究会に変更したが、このような開催方法もあるということで、実施できてよかった。</li> <li>中学校だけでなく、小学校の教員も参加したが、小学校の教員の研修が深まるだけでなく、小学校教員による指摘などは、中学校教員へのよい刺激にもなったと思う。</li> <li>英語検定料の一部補助を実施する事で、生徒の英語力や学習意欲の向上させることができた。受験者が一定数いることと、受験等級が上級化している。</li> </ul>		達成度 英検受験者数(補助対象分) <ul style="list-style-type: none"> <li>・30年度 99名</li> <li>・元年度 115名</li> <li>・2年度 162名</li> <li>・3年度 134名</li> </ul>	
			令和3年度決算額 3,911,830円	
課題	令和3年度から、中学校においては新学習指導要領の全面实施となったが、従来の授業スタイルから脱却し、新学習指導要領の考え方に沿った授業改善を図っていく。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等		
意見内容	受験者数、合格者数の増加を記載し、その傾向が見えるようにすれば、さらに積極的な評価ができる。			
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	A	A(計画どおり又は計画以上の成果が得られた) B(課題は残しながらも概ね目標は達成できた) C(課題を残し、目標も充分達成できなかった) D(検討段階に止まり具体の成果はなかった)		

令和4年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和3年度対象）

項目番号	21	令和3年度重点実践項目	5. ダイバーシティ教育の推進	
点検・評価対象とする事務事業	(2) 適応指導教室の運営		担当課	学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 ユニバーサルデザイン環境の構築に努める		
事業目的	様々な理由で登校できない状態または、その傾向にある児童生徒の居場所をつくり、相談、適応指導を通して集団生活への適応、社会的自立を目指す。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な支援会議や学校訪問、指導員会議、キントーンの活用等を通して、協働的なアセスメントと支援を推進するとともに、多様な支援ニーズへの対応力の向上を図る。</li> <li>年間複数回開催する不登校児童生徒支援担当者会議を通して、不登校児童生徒支援の拠点化を目指した運営を行う。</li> </ul>		達成指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校や関係機関と連携して、アセスメントを基にした支援を行い、通室生の変容をまとめる。</li> <li>不登校児童生徒支援担当者会議を、年間複数回実施する。</li> </ul>
			令和3年度予算額	6,032,000円
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校、関係機関と協働したアセスメントの継続及び、多様な支援ニーズへの対応力の向上を図ることができた。</li> <li>年間3回の不登校児童生徒支援担当者会議を実施し、社会的自立を目指す不登校支援の方向性及び、小中連携等組織的な取組の重要性を共有することができた。</li> </ul>		達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>アセスメントを軸にした学校との連携等により、通室開始や登校へとつながるなど、個々のペースにおいて社会的自立に向けた通室生の変容が見られた。</li> <li>不登校児童生徒支援担当者会議を年間3回実施することができた。</li> </ul>
			令和3年度決算額	5,154,454円
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>親支援の在り方や多様なアウトリーチによる支援の充実について検討する。</li> <li>各ブロックの実情に応じた小中連携、他機関連携の促進に向けた環境づくり、多面的なアセスメントや多層的な支援の推進など不登校支援における拠点化機能の向上を図る。</li> <li>不登校支援担当者会議を学び合う場として位置づけ、社会的自立に向けた不登校支援の在り方について実践事例等を通して研修する。</li> </ul>			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等		
意見内容	学校に来られないことをネガティブに捉えず、増加するのは全国的な傾向であり、それらの児童生徒を社会的自立に向けていくことが、先鋭的であると思う。府下の模範になる取り組みである。			
内部評価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。</li> <li>※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。</li> <li>※評価の判断基準は下記のとおり</li> </ul>		
総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた）</li> <li>B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた）</li> <li>C（課題を残し、目標も充分達成できなかった）</li> <li>D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）</li> </ul>		

令和4年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和3年度対象）

項目番号	22	令和3年度重点実践項目	5. ダイバーシティ教育の推進	
点検・評価対象とする事務事業	(3) 特別支援教育推進事業		担当課	学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 バリアフリー意識の啓発・浸透に努める		
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルーシブ教育システムの構築を目指して、すべての児童生徒にとって学びやすい授業や教育環境の整備を推進する。</li> <li>・教育支援委員会では、アセスメントと指導支援を積み重ね、障がいの状態や教育的ニーズ、本人及び保護者の意見等を踏まえた総合的な観点から「学びの場」を判定する。</li> <li>・「育ち合う子らの集い」作品展を実施し、互いの「違い」を認め、「同じ」を感じるという「心のバリアフリー」意識の涵養を図る。</li> </ul>			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育充実事業 (南丹市特別支援教育支援員の配置18人) (南丹市特別支援教育支援員研修会)</li> <li>・南丹市教育支援委員会の運営</li> <li>・「育ち合う子らの集い作品展」の実施</li> </ul>		達成指標	コロナ禍における創意工夫を行い、それぞれの事業目標に対する評価を「概ね達成できた」にする。また、次の段階に進めるための具体的な課題と達成に向けた方策を明確にする。
			令和3年度予算額	27,492,000円
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常学級における支援員の配置により、発達特性に応じた児童生徒の学びを促すための支援を充実することができた。研修会を通して支援員の役割について認識を深めることができた。</li> <li>・コロナ禍における教育支援委員会の運営を工夫しながら、対象児童生徒のアセスメントや指導支援とともに就学相談活動を丁寧に行い、判定協議を進めることができた。</li> <li>・各ブロックの実行委員会に、今年度は丹波支援学校も加わり、保育所、幼稚園、小中学校の校種連携により開催することができた。作品展の目的である「心のバリアフリー」の目指す方向性を共有しながら進めることにより、各ブロックの実態に応じた方法で、「心のバリアフリー」意識の涵養が図れた。</li> </ul>		達成度	コロナ禍における創意工夫を行い、それぞれの事業目標が概ね達成できた。また、次の段階に進めるための具体的な課題は明確にすることができた。達成に向けた具体的な方策については、整理する必要がある。
			令和3年度決算額	25,343,320円
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各校の特別支援教育における支援員の役割を明確にするとともに、対象児童生徒のアセスメントと支援の方向性を支援員と共有しやすくする。また、特別支援学級在籍児童の発達課題の多様化を踏まえ、特別支援学級における支援員による支援も検討する必要がある。</li> <li>・インクルーシブ教育システムの構築と関連づけながら、教育支援委員会の使命と役割を果たす運営に努める。</li> <li>・コロナ禍における「育ち合う子らの集い」の在り方について検討する必要がある。</li> </ul>			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等		
意見内容	支援員がアセスメント支援の方向性を共有できている。 今後はアセスメント能力を高め、スキルアップの研修を持つなど、18名のスキルアップが課題だと考える。			
内部評価	B	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	B	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		



## 令和4年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和3年度対象）

項目番号	23	令和3年度重点実践項目	6. 自己肯定感・有用感の育成		
点検・評価対象とする事務事業		(1) 校種間連携推進事業		担当課	学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け			実践の方向性 異年齢で学びや交流の場を広げる		
事業目的	中学校ブロックを単位とした校種間連携体制の下で進める研究・研修活動を通して、子どもの発達理解・教育内容を深め、授業力・保育力の向上を図る。				
事業内容	授業を含む一斉研修会2回（6月・11月） 夏季研修会：園部中B（非認知能力の一体的な育成） 八木中B（地域道徳） 殿田中B（ICT教育） 美山中B（特別支援教育） 府・市の教育実践指定事業と一体となったブロック研究活動 （八木中学校ブロック：南丹教育局指定京都丹波の教育推進事業：地域道徳） 4ブロック教育実践報告会（代表校長会）			達成指標	
				年間2回の研究会及び夏季研究会を開催する。「地域道徳」の推進に向け、八木中ブロックに学び実践を進める。	
				令和3年度予算額	
				200,000円	
成果	・保、幼、小、中連携事業においては、中学校ブロックを単位として、全小学校・中学校・幼稚園及び保育所による校種を越えた交流・研究事業が展開できたことにより、就学前から義務教育9年間を見通した連携と研究が深まり、子どもの理解と学びの姿勢づくり・学力向上に繋がってきている。 ・目指す姿に向けて、（保）幼少中で地域道徳の推進に向けた取組を行うことができたブロックもあった。			達成度	
				コロナ禍において、各ブロックともブロックの教育課題、特色を踏まえ研究活動を推進し、校種間の連携を深めた。研究会開催にあたりGIGAスクール構想の活用を進めた。	
				令和3年度決算額	
				128,603円	
課題	中学校ブロックで、地域で育てる子ども像を共有し、地域道徳の取組を推進する。				
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等			
意見内容	幼小の懸け橋はブロックごとに違うため、画一的にしてもうまくいかない。不登校問題を見ると、ブロックごとの問題の違いが見えてくる。 不登校の問題は小学校に入ってからの問題ではない。 南丹市の保幼小中の連携は府内でもほかに群を抜いている。この取り組みのまま推進するのがよい。				
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり			
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）			

令和4年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和3年度対象）

項目番号	24	令和3年度重点実践項目	6. 自己肯定感・有用感の育成	
点検・評価対象とする事務事業	(2) 子どものための地域連携事業		担当課	社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 地域における子どもの居場所を充実させる、子どもが地域社会で活躍できる場を創出する		
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域総がかりで子どもを育み、様々な技能や技術を持つ地域人材が子ども達に伝え教え関わることで、健康寿命・長寿延伸に繋がる。</li> <li>・子ども達にとっても、地域人材と関わることで様々な体験を積むことができるとともに、顔見知りになることで安心できる大人に見守られ、安全で安心な生活が送れる。</li> </ul>			
事業内容	地域と協働連携して、ものづくりや環境活動、共同作業、三世代交流等の取り組みを実施する。		達成指標	
			放課後児童クラブと連携した全小中学校区での実施。	
			令和3年度予算額	
			10,049,000円	
成果	教員や地域の大人が子供と向き合う時間の増加、住民等の学習成果の活用機会の拡充及び地域の教育力の活性化を図ることができた。小中学校12校に地域学校協働活動推進員を配置することができた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後子供教室 摩気高山子ども未来塾、神吉太鼓教室、八木西教室</li> <li>・地域学校協働活動推進事業 全小中学校で実施（学習支援、教科補助、花壇植栽、図書整理、クラブ活動支援、体験活動支援、下校サポーター等）</li> </ul>		達成度	
			【放課後】園部地区1ヶ所（摩気高山教室）八木地区2ヶ所（神吉教室、八木西教室）で実施できた。 【地域学校】小中学校12校で推進員の配置及び活動実施ができた。学習支援（未来塾）では3中学校で実施できた。	
			令和3年度決算額	
		9,900,597円		
課題	【放課後子供教室】 実施個所としては昨年に比べ減少した。 長期的に持続可能な居場所づくりを、人材や支援体制面で考えていく必要がある。			
	【地域学校協働活動推進事業】 地域学校協働活動推進員が配置できたことで、学校教職員と連携していく必要があるため、学校内での地域学校協働活動推進員の存在と活用について認識を深めていく必要がある。 学校教職員と連携する中で、今までと同じものばかりでなく一歩進んだ活動を展開する必要がある。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	令和3年度社会教育課事業報告	
意見内容	地域学校協働活動の動きが、地域で見えるよう認識を深める必要がある。 推進員同士の横のつながりができ、学校や地域の中で孤立しないように、地域への周知もしてほしい。 子どもの居場所づくりは重要であり、コロナ由来での減少と、それ以外の減少を明確にしておく必要がある。コロナ以外の原因は引き継がれているので、そこを見極めておくことが大切である。			
内部評価	B	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	B	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体的な成果はなかった）		

## 令和4年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和3年度対象）

項目番号	25	令和3年度重点実践項目	6. 自己肯定感・有用感の育成	
点検・評価対象とする事務事業		(3) コミュニティ・スクール推進事業	担当課	学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 地域人材が学校で活躍できる場を創出する		
事業目的	コミュニティ・スクールを核に学校・家庭・地域の連携・協働体制を確立し、学校教育の充実と地域の活性化を図る。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職及び地域連携担当教職員対象の研修会を実施し、中核層のコミュニティ・スクールへの理解を深め、そこから教職員全体への波及を図る。</li> <li>・学校運営協議会及び熟議の開催を通じて、地域と学校との交流を深め、目指す子ども像と価値観の共有化を図る。</li> <li>・各校独自の課題や特徴に対応するため、学校別に学校長・学校運営協議会会長・地域学校協働活動推進員とCSマイスター及び市教委担当者との相談会を年度末に実施する。</li> <li>・学校運営協議会及び熟議で「地域道徳」について協議する。</li> </ul>		達成指標	全市立学校で、学校運営協議会及び熟議を実施する。 教職員に対して計画的に研修会を実施する。 「地域道徳」について学校運営協議会等で協議する。
			令和3年度予算額	664,000円
			達成度	学校運営協議会は全校で実施できたが、熟議についてはコロナ禍の影響もあり、実施できていない学校があった。 管理職、地域連携担当教職員、全教職員を対象を変えて個別に研修会を実施した。 「地域道徳」については、全市立学校で学校運営協議会の議題として取り上げられ、熟議でも論議できた学校があった。
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍が継続する中ではあったが、学校長、地域連携担当教職員対象の研修会を実施し、理解を深めることができた。特に年度末の個別相談会では、その学校独自の課題や成果を踏まえ、次年度への見通しのもてる研修ができた。</li> <li>・当初の予定通り、学校長及び地域連携担当教職員の研修会を実施し、それぞれの認識を深めることができた。</li> <li>・夏には、南丹市の全教職員をオンラインで結んだ研修会を実施し、一般教職員まで含めた形でコミュニティ・スクールに対する理解を深めることができた。</li> <li>・学校によっては、学校運営協議会や熟議等の論議の場に一般教職員を参加させることを通じて、コミュニティ・スクールを体験的に理解する工夫もしている。</li> <li>・学校により大きな差があるが、積極的に学校運営協議会や熟議を開催している学校では、地域との一体化が進んできている。</li> </ul>		令和3年度決算額	560,000円
			課題	
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等	
意見内容	推進員や運営協議会は地域の方に参画いただいているため、地域のことをよくわかる教員が学校の中にいるかどうかで状況が変わってくる。 学校の中で協力的な人がいないと、地域のまとめが弱い。さらに若い先生の力も重要になってくる。			
内部評価	B	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	B	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		